

2023年8月4日

各 位

日本トランスシティ株式会社
取締役社長 安藤 仁

「三重朝日物流センター」竣工について

当社は、三重県三重郡朝日町において当社グループ最大の拠点となる新倉庫「三重朝日物流センター」を取得し、竣工しましたのでお知らせします。

当センターは、住友電装株式会社の自動車用ワイヤーハーネス部材等の物流関連事業を担う合併会社「STコネクトロジスティクス株式会社」（日本トランスシティ株式会社、住友電装株式会社、伊勢湾倉庫株式会社による共同出資）の事業の用に供する倉庫として、今後、住友電装グループの事業展開におけるサプライチェーンに最適な物流サービスを提供してまいります。

なお、当社グループは「環境に配慮した事業推進」を重要な課題の一つとして位置付け、温室効果ガス削減や省資源活動に取り組むとともに、環境に優しい物流サービスや物流施設の充実に向けて、取り組みを進めており、同センターはこれらのサステナビリティへの取り組みを実現する倉庫となっております。

記

1. 倉庫用地

- (1) 所在地 三重県三重郡朝日町大字埋縄字川原1
(伊勢湾岸自動車道 みえ朝日インターチェンジ隣接)
- (2) 面積 68,620 m² (20,757 坪)

2. 倉庫構造など

- (1) 倉庫構造 鉄骨造 3階建
- (2) 倉庫延床面積 61,445 m² (18,587 坪)
- (3) 事務所棟 鉄骨造3階建1棟 延床面積約2,685 m² (812 坪)
- (4) 倉庫設備 垂直搬送機、人貨用エレベーター、ドックレベラー、ソーター、空調設備等
- (5) その他設備 太陽光発電設備、LED照明、非常用自家発電設備 等
- (6) 業務内容 自動車用ワイヤーハーネス部材等の荷受・仕分け・保管・付帯作業・配送等の物流業務

*当センターは、国土交通省から2023年4月20日付で「流通業務の総合化及び効率化の促進に関する法律」に基づく総合効率化計画として認定されております。

3. 竣工日 2023年6月30日

本件についてのご照会は、総務部（059-336-5018 鈴木）までお願いいたします。

以 上



「三重朝日物流センター」におけるサステナビリティへの取り組み

太陽光発電設備で発電した電気の自家消費および当社グループでの再エネ活用

当センターは、脱炭素社会実現への取り組みとして、倉庫屋根全面に 3,146KW のメガソーラー（大規模太陽光発電）を敷設しており、年間約 3,581,000kWh の発電量を見込んでおります。

当センターでは発電した電力を使用するとともに、当センターの使用電力量を上回る余剰電力については、中部電力ミライズ株式会社との電力契約に基づき、同社に売却し、当該再エネ電力を当社グループの他拠点で購入するスキームを導入しております。当該取り組みにより、当センターで発電した電力を余すことなく利用し、当センターだけでなく当社グループの他拠点において再生可能エネルギーを使用することが可能となります。

当社は、これにより、2020 年度 CO2 排出量（15,768t）の 10%相当の削減を実現いたします。

【スキーム】



三重朝日物流センター

自家消費

発電+売電



再生可能エネルギー購入



当社グループの他拠点

再エネ活用

建築物省エネルギー性能表示制度の最高ランクを獲得・『ZEB』の認証取得

当センターは、省エネルギー・創エネルギーを実現する施設設計となっており、上記太陽光発電等により、再生可能エネルギーを加えた設計一次エネルギー消費量の一次エネルギー消費量からの削減率は 227%を達成します。これらが評価され、同センターにおいては、建築物省エネルギー性能表示制度（Building Energy-efficiency Labeling System、以下「BELS」）で、5段階評価の最高ランクを獲得すると同時に、ZEB 認証における最上位となる『ZEB』認証を取得しております。



生物多様性に貢献できる多様な緑地や水面の創出

当センターの敷地内には、生物多様性に貢献できる多様な緑地や水面等を有しております。特に、敷地全体の樹木を鳥類が好む在来種を中心に植栽することで、鳥による種子散布などを通じて新たな在来種の生息を図っております。また、侵入する常緑樹および外来種の樹木を選択的に取り除くことで、地域に本来生息・自生していた植物による緑地の構成を目指しております。さらに施設の南東角には、周辺の川や水田等の環境と調和した水辺ビオトープ（生物の生息空間）エリアを設置し、より多様な生物が生息できる環境を創出しております。竣工にあたっては、地域と生きものが共生できる地域づくりや次世代の環境教育の足掛かりとして、本年7月15日に近隣の生きものを水辺ビオトープへ放流する「生きもの放流会」を実施いたしました。



なお、当センターは、これらの生物多様性に配慮した環境保全の計画が評価され、当センターの建設会社である大和ハウス工業株式会社とともに「一般社団法人いきもの共生事業推進協議会（ABINC）」の「いきもの共生事業所®認証（ABINC 認証）」を取得しております。

当社グループは今後も環境に優しい物流サービスや物流施設の充実に取り組んでまいります。